

よく馴附るや

さるはのちいづるは鶴やんなくともぬきともいふ

春日ハ長とつけしれとめて歌の意ハ明々やとて二月比の

羽くづべ時あな多く鶴肥とるものめて鶴を逃さず

あるものや依くさまで盗喰さるゝわわく存とも去追て

鶴人のあゝざればあづう盗喰さるゝと君侯ハの給ひ

き塙本あぢ四ノ句をんたりともとす是あゝもゆ

あつのとらよてしはまけりの様もとひ尾の鶴やまはす

まの日はこのあでのとらねるよりのねもをんあはるゝく

とび尾の鶴はまゝとらんやきりき舞とて鶴は縁をとれと